

指針第2号様式

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,829	t-CO ₂
（温室効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,829

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
温室効果ガス総排出量	2,285	t-CO ₂	2,217	t-CO ₂	2,238	t-CO ₂	2,132	t-CO ₂	1,829	t-CO ₂
削減率（対基準年度）			3.0	%	2.1	%	6.7	%	20.0	%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
原単位あたりの排出量										
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

予想以上の削減結果だったので、個人的な意見ではありますが、非常に良かったです。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理	<ul style="list-style-type: none"> ・テナント毎のエネルギー使用量を把握し、使用量の多いテナントへは、データを提供し、エネルギー節減の参考資料にしてもらう。 		
省エネルギー・省資源の行動実践 ・冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> ・空調機・ファンコイル・全熱交換器のオーバーホール・更新を進め、効率の良い運転を行う。 ・適正な温度での運転を、こまめにチェックする。 	空気調和機更新 (2階、4階、9～12階) ファンコイル更新 (2階、4階、9～12階) 全熱交換器更新 (2)	
省エネルギー・省資源の行動実践 ・照明	<ul style="list-style-type: none"> ・使用していない部屋、始業前、昼休み、残業時等必要のない照明を消す。 ・照明器具を更新する際は、高効率の器具にする。 	専用部及び共用部照明器具LED化 (12階、14階～16階) 東西非常階段室照明器具LED化 (地下4階)	
省エネルギー・省資源の行動実践 ・受変電	<ul style="list-style-type: none"> ・契約電力の見直しとデマンドコントロールにより、ピーク時電力のカットを図る。 ・長期計画の中で、受変電効率の良い機器への更新を検討する。 	契約電力の見直し (令和3年度 1248kw → 令和4年度 1100kw に契約変更)	
省エネルギー・省資源の行動実践 ・OA機器	<ul style="list-style-type: none"> ・帰宅時には、パソコンのモニター電源を切る。 ・テレビは、主電源で入り切りし、待機電力を削減する。 		

指針第2号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況